

名前(国内所属校)：祝迫直子（広島県立高宮高等学校）

現地勤務先：インドネシア共和国 スラウェシ島 南スラウェシ州 ジェネポント県教育局 学校外教育課

H21年10月21日～H22年1月31日の出来事、活動の様子

# Selamat(スラマツト)

インドネシア語で、「安寧な、安全な、平和な」という意味です。  
いろんな言葉と組み合わせるとつかえます。

H22年1月31日作成 第7号

広島県立高宮高等学校 地理歴史・公民科教諭 祝迫直子

青年海外協力隊（JOCV）

H20年度 第1次隊

任国 インドネシア

職種 青少年活動

スラマツト シアン  
広島県の皆さん、Selamat siang!（インドネシア語で「こんにちは」の意味です）。私は広島

県立高宮高等学校の祝迫直子です。平成20年度より現職教員特別参加制度で青年海外協力隊へ参加しています。一昨年の6月23日にインドネシアへ渡航して早1年7か月が過ぎました。任地ジェネポント県教育局へ8月5日に赴任し、1年6か月が過ぎたところです。第7号である今回は、学校訪問と広島原爆に関する平和学習についてお話しします。

## 1 学校訪問へ

任期1年目過ぎまで、学校外教育課に所属したこともあり、午前中はずっと配属先の教育局にて勤務していました。識字教室や中途退学者の再教育施設の巡回や自主活動（空手教室・日本語教室）は主に午後の活動でした。できれば、午前中の教育局出勤の時間にフォーマル教育（正規の学校）の方の学校訪問をできればと考えるようになりました。

訪問内容：

### ・日本の高等学校（日本の所属校の年間の流れ）の紹介

写真中心のパワーポイント（インドネシア語版）高校生向け作成  
<右写真は、宗教学校の高中生へ教室になぜ4つゴミ箱を設置しているか問いかけている様子（教室にゴミ箱を設置していない学校が多数）。紹介中停電となり、自家発電機を用いる。>

### ・空手教室の実施 小中高等学校の体育の時間や金曜日の体育の日に（実習と技の説明）

### ・手洗い講習会の実施 先輩隊員とともに衛生講習会の教材ポスター等を準備



<写真は左：黒板に空手の技を書いて説明，中：空手教室を実施した公立ビナム第一中学校1年生とともに，右：衛生（手洗い・歯磨き・洗髪等）講習会の準備を先輩隊員とともに，都市マカッサルにて行ったときに撮影。>

## 2 広島原爆に関する平和学習

2008年8月6日は私の活動開始日でした。その日ビナム公立第二高等学校で広島原爆について、つたないインドネシア語でしか話せなかったことは以前『スラムット2号』でお話しました。活動1年後には少しでもきちんと広島原爆について話せるようになりたいと目標を掲げ、他の活動を行いながら少しずつ準備を始めることにしました。

### 広島JICAデスクとボランティア調整員のご協力を経て

任地へ渡航する時に、広島原爆についての資料等を少しは持ってきていましたが、インドネシアの方々へよりわかりやすく説明するには、十分とはいえませんでした。ポスターやDVDを広島JICAデスクより寄贈していただけることとなりました。しかし、インドネシアへ公費輸送するためにはインドネシアJICA事務所所長からの公電が必要でした。私は任地ジェネポイントで広島原爆展を開きたい旨をボランティア調整員の方に相談しました。何回かのやりとりの後、調整員の方からのお返事は「公電は送ります。ただし、インドネシアは日本が占領した過去を持つ国（1942年～1945年）ですから、実行する前に任地での状況をまずはよく把握するように。」とのことでした。このお返事は私にとって、本当に考えさせられるものでした。日々、任地で生活する中で、インドネシアの方が日本人をどう見ているかについて正面から向き合わねばならないという意識を私は持っていました。他の隊員に協力を得て大々的に広島原爆展を行いたいと当初は思っていたが、まずは私自身の活動現場でよく状況を見て、小さな一歩を踏み出すことにしました。

<写真上：ロマガ小学校5年生，DVD「広島・母たちの祈り」上映>

### インドネシア人の方々とともに

広島原爆について説明するのに最適な資料は日本から無事送られてきました。しかし、実際に私一人で広島原爆についてインドネシアの人にわかってもらえるよう十分な説明をするには語学力がかなり不足していました。まずは身近なインドネシアの方にわかってもらおうと思い、教育局で信頼のおける仕事仲間と空手教室の教え子の高校卒業生に相談をしました。インドネシアの人は私が「広島から来ました。」というと「原爆の都市ですね。」と返してくれる人が多いです。しかし、その中身については知らない人がほとんどでした。幸いDVDがインドネシア語版であったため、停電を考慮し、フィルムを回す機械を調達すれば、流すことは可能でした。しかし、インドネシアの人々がどのように戦争を捉えているかを知ること、原爆の実態をフィルムで見もらった後に、どのような印象を持ったかを把握すること、且つ放射能被害の影響や世界平和への動きについて考えてもらうには、どうしてもインドネシア語での補足が必要でした。相談した二人のインドネシアの方に手伝ってもらって、まずは英語版と日本語版のポスターをインドネシア語版に翻訳する作業を一緒にする中で、お互いに意見交換しながら内容把握に努めました。そして、配属先近くの小学校・中学校・高等学校・宗教学校・識字教室へ足を運びながら、まずは学校の先生に内容を説明し、広島原爆に関する平和学習を実施してもよいかを伺いました。すべての学校はOKを出してくださり、実行に至りました。実際には、平和学習を取り仕切ったのは私ではなく、相談した二人のインドネシアの方と訪問した学校の先生方だったのです。日本について理解しようとしてくださるインドネシア人指導者の方々の心の大きさに本当に頭の下がる思いでした。

<写真下：サダコさんのポスターについて説明中の空手教室の教え子の高校卒業生>

